

清流のほとり



令和8年7月1日(水)発行

園長 露木 美江 寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

～ひとりひとりの思いを大切に～

雨が上がると子どもたちは元気に園庭へ向かって走って行きます。

幼稚園横の川で捕まえたカニが1匹2匹と死んでしまったことをきっかけに、どうしたらいいか各クラスで話し合いが始まりました。命に対する課題意識が、子どもたちの『いのちを大切に作る心』を育むと信じて、結論を子どもたちに委ねました。



いちご組では担任が「ママ、パパがいないとかわいそうだね。どうする?」と聞くと「かわいそう」「逃がしてあげよう」とすぐにみんなで逃がしました。

うさぎ組では担任が話すと「ぼくが捕まえたから逃がさない」とある子が言います。「そうか～カニの気持ちはどうかな」と聞いてみると「帰りたーいよ。川がいいよって言ってる」とある子が言います。「じゃあぼくが捕まえたカニだけ持って帰る」「いいね」そこで持って帰りたーい子は持って帰るということに決まり他のカニはみんなで逃がしました。虫かごのふたを開けると、よじ登って川に行く姿を見て「やっぱり川がいいんだ!よかったね!」と言っていました。



ほし組です。1日目の話し合いでは、なかなか決まらず、2日目は実際に川に行き現地での話し合いとなりました。川の水の冷たさを感じ、たらいの水との違いを実感した子どもたち・・・「川に帰してあげよう」と言う子が多い中で「流れが速いと流されてしまってかわいそうだ」と言う子もいます。でもしばらくして一人になった時に、そっと逃がしてあげる姿がありました。「弱っている子は逃がしてあげた!だって冷たい水が好きだから。元気になったらまた会えるかも」と言いながら・・・

その後しばらく元気なカニを飼育していましたが、だんだん関心が薄れてきました。そこで担任はもう一度聞いてみました。すると「逃がしてあげる。石を周りにおいて水があまり来ないようにしてあげよう。そうすれば流されないから」と言ったそうです。

早速、翌日みんなでカニを逃がしに行きました。「またいつか会おうね」思い入れが強い分、葛藤も大きかったことでしょう。でも時間をかけて何度も話し合い、自分達で結論を見出したこと、そして「園長先生!聞いてください」と喜んで話す担任の姿をうれしく思いました。

自分とカニを重ね合わせた3歳児、自分の思いをみんなの前で伝えることができた4歳児、友だちの思いを受け止めてどうしたらよいか自分事として考えた5歳児・・・カニの気持ちを考えたり、友だちの思いに触れたりし、どうすればよいかを一生懸命考えることができました。年齢差をほほえましく思うとともに、みんなで考え、子どもたちで決めていくことの大切さを改めて感じました。今後も何でも言い合える、そして一人一人の思いを大切にする温かいクラスづくりを目指していきます。



花壇の中にキャベツの苗?

いちご組前の花壇に、突然キャベツの苗が現れました。菜の花が全滅してしまい、代わりに担任が植えたのです。誰のためでしょうか?青くてかわいいお客様です。子どもたちは毎日夢中になって探しています!



おもしろいもの みつけました!



松田のサグラダファミリア?



うさぎ組にそびえ立つ箱で作ったタワーです。担任は遊びが継続するよう場を残す設定をしています。椅子を使ったり友だちと協力したりしながら、やっと天井まで届きました!まだ日々形が変わっています。さて完成する日はくるのでしょうか?